

都城市議会議長 様

提出日：平成 30 年 10 月 22 日
進政会 荒神 稔

視 察 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

- 1 会 派 名： 進政会
- 2 視察者名： 荒神 稔 長友潤治 中田 悟 川内賢幸
赤塚隆志 山内一徳 議員
- 3 視察先：テーマ
(1) 大阪府茨木市
テーマ：茨木っ子グローイングアッププランについて

(2) 視察先：奈良県五條市
テーマ：ジビエ活用について

(3) 視察先：三重県鈴鹿市
テーマ：プログラミング教育について
- 4 日 時：平成 30 年 10 月 10 日（水）～12 日（金）
(1) 茨木市役所・10 月 10 日（水）
13 時 30 分 ～ 15 時

(2) 五條市役所・10 月 11 日（木）
食肉処理加工施設（ジビエール五條）へ移動
13 時 30 分 ～ 16 時

(3) 鈴鹿市立平田野中学校・10 月 12 日（金）
午前 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分

10月10日（水）

1、調査事項：茨木っ子グローインアッププランについて

研修場所：大阪府茨木市役所

議会事務局次長兼議事課長 野村昭文 様

出席職員：学校教育部長 小川 浩一 様

説明職員：学校教育推進課 学力向上 G 尾崎 和美 様

2、視察内容と感想

- ① 茨木市の教職員は、5年未満の教職員が全体の4割にあたる。
- ② 平均点だけでは子どもの姿は分からない、学力低層の子ども達はテストなれをしてないなど、学力低層を減らすことを一番の目標にした。
- ③ 学校の意識の変化として、先生達が生徒にわかる授業をしたいことで、やりがいを感じてきた先生が年々多くなってきた。
- ④ 初年度は、担当者の取組意識がバラバラで、3年目では取組推進が有効である割合が77%、6年目の割合は95% そして、9年目では、97, 9%の割合になった。
- ⑤ 教職員の多忙解消策として、全校一斉、18時30分退校を実施
(サポーター配置による週1日・概ね水曜日)

3、研修の成果及び市政への反映等

- ◎ 本市も「一人も見捨てへん」教育の実現に向けて
学力低位者に着目した施策・事業に取り組まれ、学校だけに任せず教育委員会が主体となり、学校の学力状況に応じた特定の施策を実施されていることから内容を参考に本市の教育行政に反映を望むものです。

10月11日（木）

1、調査事項：ジビエ活用について

研修場所：奈良県五條市役所及び、

食肉処理加工施設「ジビエール五條」の現地説明

議会事務局次長 井筒昭則 様

五條市議会副議長 窪 佳秀 様

出席職員：産業環境部 部長 井上 昭 様

説明職員：産業環境部農林政策課 課長補佐 泉井伸之 様

2、視察内容と感想

- ① 日本一の柿生産地である柿を狙う、イノシシが多く、
五條市鳥獣被害防止計画推進による対策を行ってきた効果が発揮され、
被害が減少した説明を受けた。
イノシシ1頭に対しての奨励金
7000円であるが、搬入条件に適合したものには、
(夏場の場合：60分・冬の場合：90分以内・保冷車の場合：2時間以内)
プラス2000円で9000円となる。

捕獲方法として、イノシシは、猟銃 2% ・わな 98%
ニホンジカは、猟銃 7% ・わな 93%

- ② 食肉処理加工施設「ジビエール五條」について
建設概要 : S造1階建・床面積 77、89㎡
全体事業費 : 3,931万3,000円
55%は補助金で完成
食肉を地域の資源を有効活用することで地域を活性化する目的で設立
された為、利益を目的に運営しない直営である。
事故発生の場合に表示の明確と五條市のふるさとPR事業政策であるが、
今後は、指定管理者も視野にいて検討する説明。

- ③ 販売品として、カレー・食肉・燻製肉・鹿皮セーム革・
今年、冬より（肉まん）を販売予定
(カレーは5割以上の実績)
販売ルートとして、道の駅（大塔ふるさとセンター・かつらぎ）
市県内（大阪・東京）の料理店に納品している。
ふるさと納税返礼品にも活用

- ◎ 販売ルートが最大の課題だが、本市と違い五條市については、
大阪、神戸、京都、名古屋等の大都会の存在に期待できる地域である。

3、研修の成果及び市政への反映等

鳥獣被害駆除による資源の有効活用として、食肉処理加工施設
「ジビエール五條」を建設されている。
本市においても鳥獣被害防止のためと、ジビエを活かした地域活性化事業
を目的にした政策を望むものです。

10月12日（金）

1、調査事項：プログラミング教育について

研修場所：三重県鈴鹿市立平田野中学校

議会事務局議事課調査法制グループ 佐藤小百合 様

出席職員：教育委員会事務局参事 山田純生 様

説明職員：担当教諭 渥美勇輝 様 ・ 中学校長 岡野優子 様

教育委員会事務局教育指導課副主幹兼指導主事 青木有紀 様

2、視察内容と感想

鈴鹿市立平田野中学校は、新築して4年目になる中学校

（本田技研工場拡大により移転した）

◎ 技術科で人型ロボット「ペッパー」を活用した授業を参観した。

課題として人型ロボットを活用したサービスを開発して、ロボットの活躍場面を知ろうという内容だったが、生徒も興味深く積極的な生徒、一部、消極的な生徒による授業風景も見られた。

① 「ペッパー」のプログラムは、ソフトバンクグループの提供による社会貢献活動のひとつである。

② プログラミング教材の活用

レンタル費用

ペッパー1台（月）2万円 × 36ヶ月 = 72万円（税別）

鈴鹿市では、3台をレンタルしているため、

3年間で、216万円（税別）

③ 課題として各学校に機材ペッパー設置については、今後の3年間で検討していく説明。

3、研修の成果及び市政への反映等

鈴鹿市の中学校では、「技術・家庭科」技術分野で既に実施されており、小学校では、プログラミング教育に不安を持つ教員がいるため研修講座・情報教育担当者会を実施され、県教委主催の指導者育成研修を受けている説明だった。本市のプログラミング教育の現状を把握するとともに、2020年度から小学校で必修化となることから、本市の教職員の体制が気になった。

進政会 視察報告書

中田 悟

平成30年10月10日

大阪府茨木市「茨木っ子グローイングアッププランについて」

《視察の感想》

茨木市内の小学校32校、中学校14校における学力の現況を調査した結果、学力が低下している厳しい状況だった。

公立学校に通う子ども達はさまざまな生活を背負っている。親が忙しくかまってもらえないさみしさから、教師に甘えてくる子・家庭の経済状況によって、自分の夢をあきらめている子・朝ご飯を食べずに、お腹を空かして登校する子・経済的には恵まれていても、親の愛情不足で友達に嫌がらせばかりする子・親の過大な期待に応えることに必死になっている子・知識は豊富で勉強は出来るが、友だちを上手に作ることが出来ない子、など子ども達が一人一人違う状況におかれている。

そうした子ども達が自分自身の進路を切り開くためには勉強だけすればいいのではなく、「自尊感情」「生活習慣」「社会性」「規範意識」など一番必要なのは「生きる力」と定義し、「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」「元気力」の5つの力を基本に教育のあり方の方向を定めた。

教員の状況は経験5年以下の経験の少ない若手が4割を占めており、「生きる力」のための教育を実現するために専門支援員の配置や各学校に必要な人材や機材のために3万円を支給するなどしているとの事だった。

子ども達の学力にはそれぞれの生活環境などにより異なるが、低学力の子どもには授業時間以外の時間に学校内において個別にサポートする体制をとって、理解できていない問題などを理解させて、確実に次のステップに進めるようにしている。

「一人も見捨てない」との観点からジャンプアッププランとして保・幼・小・中で連携して中学校で最終的に学力差が生じない様に取り組んでいるとの事だった。

《視察の感想と本市への反映について》

本市においても学力の向上に向けた多くの取り組みを行っているが、今回の視察において注目したのは低学力の子どもへの対処だった。授業時間以外に低学力の子どもに個別のサポートを行い、その段階における解らない問題、解けない問題などを理解できるようにさせて、次の授業について行けるようにしていることだった。

それぞれの生活環境があるなかで、子どもたちのやる気を引き出して子どもと親の相互において前に進む取り組みだった。

本市においてもこうした子ども一人一人にしっかりと手を差し伸べていく取り組みが必要だと思った。

平成30年10月11日

奈良県五條市「ジビエ活用について」

《視察の感想》

鳥獣による農林水産業等に係る被害が農林漁業者に営農意欲低下などを引き起こし、耕作放棄地の増加に繋がっている。このことにより鳥獣の増加を引き起こし、更なる被害を生じさせる事になる。

農林水産業の発展のために平成19年に鳥獣被害防止特措法が制定された。

五條市においては、増え続ける鳥獣被害に対応するために平成21年に五條市鳥獣被害防止計画を策定し様々な事業を遂行している。

平成22年度から被害額が徐々に減少して事業の効果が現れている。

現在では「個体数調整・被害防除・生息環境管理」などの施策を進めており更に被害が減少傾向にあるとのことだった。

被害防除においては国庫補助事業「鳥獣被害防止総合対策交付金」を活用して各自治会の要望箇所へ鳥獣被害防止整備事業として金網柵・電気柵・ネット柵などの設置を行っている。

個体数調整においては環境省の認可を得て、狩猟免許を取得しなくても許可証を取得できるアライグマ捕獲講習会受講を推進して3年間の捕獲許可証を取得出来るようになった。

また、狩猟免許取得の推進として高齢化する狩猟者の後継育成として、国の補助事業採択を受けて免許取得費用の一部費用を行政が負担する制度を実施した。このことにより減少と高齢化した狩猟者の改善が出来たとのことだった。

こうした取り組みに連動した捕獲した個体の資源有効活用のために、五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」を作ることとなった。

国の補助もあり運営しているが、利益は目的とせず最低限の人件費等の必要な経費を確保して、販売ルートを確認しているとの事だった。

販路としては飲食店・インターネット販売・ホテル旅館・小売業などで、製品については個体番号での管理を行っているとのことだった。

《視察の感想と本市への反映について》

本市においても鳥獣被害が多く発生している。柵の設置や狩猟者による駆除も行っているが、鳥獣の個体数と被害数は増え続けている状況だと思う。

中山間においては家庭菜園はもとより、多くの農産物に被害が出ており、資源の有効活用を目的としてジビエとしての活用を行うことも本市の地域性から可能ではあると思う。ただ、どの様な需要があるのか、また、販路の確立などの詳細な調査研究が必要だと思った。

平成30年10月12日

三重県鈴鹿市「プログラミング教育について」

《視察の感想》

近年、あらゆるものがインターネットにつながるIoTと進化したAIによって、産業構造が大きく変化していくとされており、小学校や中学校の段階から「プログラミング教育」が必要との観点から導入をした。

プログラミング教育の必修化に向けては、指導内容・教材の不明確さ・授業時間の確保などの課題があった。

実施に向けた取り組みは、調査や先行実践研究としてプログラミングを教育必修化の狙い・国の動向・プログラミング教育のツールの調査・市内小学校での先行実践研究などを行ってきたとの事だった。

視察した中学校では技術家庭の授業の一環としてロボットプログラミングの時間を確保して行っていた。

プログラミング教育のツールとしては、生徒の授業に対する興味をより持たせるために、ペッパーを導入していた。

それぞれの生徒が独自にプログラミングをしてペッパーを動かすと言う方法で、教室内では生徒の活発な活動が見られた。

ただ一部の生徒には得意な生徒もあり、作業に手間取っている様子もあった。

そうした中で、生徒間でのアドバイスなどを行っている場面もあり、繰り返しプログラミング授業に接することで子ども達の醸成も見られるのではないかと思った。

《視察の感想と本市への反映について》

将来的な予想として高度なプログラミング能力の低下が予想されている。確かに進化するITやAI化に向けた基礎力を身につけることが大切だと思う。

子ども達が将来の仕事を選択する上で、学校における授業として本市でも取り組んでいかなければならないと思う。

鈴鹿市の場合はプログラミング教育のツールとしてペッパーを導入していたが、導入する費用として1台が月2万円ほどかかり、自治体の環境の違いで他のツールの選択も必要だと思った。

進政会 長友潤治

視察日 平成 30 年 10 月 10 日

視察先 大阪市茨木市

視察項目 「茨木っ子グローイングアッププラン」～一人も見捨てへん教育～について

1、視察内容

茨木市教育委員会では3年間を1つのサイクルとして平成 20 年度より学力・体力向上の施策計画を策定しており平成 29 年度第 4 次計画として「茨木っ子グローイングアッププラン」を策定している。過去 10 年間の取り組みの成果として学力の向上が顕著で有り他府県の教育機関からの評価も高く視察等も非常に多いとの事であった。

このプランに当初からアドバイザーとして関わられている大阪大学大学院人間科学研究科の志水宏吉教授は成果が上がっている理由として3つの要因を挙げられており下記のとおりである。

① 5つの力の設定

- 1、ゆめ力・・・将来展望を持ち努力できる力
- 2、自分力・・・規範意識を持ち、自分をコントロール出来る力
- 3、つながり力・・・他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力
- 4、学び力・・・学校の授業で意欲的に学ぶ力
- 5、元気力・・・健康、体力を増進する力

※子供一人ひとりの家庭環境の違いにより単に学校の学習だけでは得られない「生きる力」を身に付けさせるために5つの力として掲げている。またこれらをデータ化し傾向の把握と対策の検討に活かしている。

② 学力低位層に着目

全国学力・学習状況調査の結果を活用し正解率 40%以下を学力低位層としている。

教室に配置されている多くの学習支援員や学習サポーターが学力低位層の子供たちに個別に学習支援を行い、学力低位層を減らし学力高位層を増やす取り組みを行っている。

③ 教育委員会と学校の連携

各小中学校より学力向上担当者を選任し各校の学力向上の取組と保幼小中連携教育を中学校ブロックごとに推進している。担当者会議を定期的に関き学力向上、キャリア教育、体力向上等の研修や中学校ブロックでの合同授業研究会に取り組んでいる。

2、まとめ

これらの取り組みにおいて当初は業務が増える事への教職員の反発も有ったそうだが成果が上がるにつれプランに対して肯定的になり意欲の向上に繋がっているとの事だった。

学力低位層として子供たちを分類する事は個人情報やいじめ等の問題に発展する危険性もあると感じたが、茨木市では十分配慮されているようであった。

茨木市の「茨木っ子グローイングアッププラン」の取り組みの中で学力向上の成果が大きく表れており全国からも注目されている。本市小・中学校の学力向上の取り組みに参考にすべき点が数多く有ると感じた。

視察日 平成 30 年 10 月 11 日

視察先 奈良県五條市

視察項目 五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」について

1、 視察内容

五條市では以前より鳥獣による農林業への被害が多く、平成 19 年度より被害状況の統計を取ってきている。これまで五條市鳥獣被害防止計画の推進により平成 22 年度をピークに被害は減少してきていたが平成 27 年度再び被害が増加したことを受けて新たに「被害防除・個体数調整・生息環境管理」を進めた結果緩やかに減少傾向にある。

被害防除とは防護柵の設置であり国の「鳥獣被害防止総合対策交付金」を活用し各自治公民館の要望により設置が進められている。

個体数調整とは被害防止計画に基づき「五條市鳥獣被害対策実施隊」を編成しイノシシ・ニホンジカ用捕獲檻 169 機設置し個体数の調整を行っている。

生息環境管理とは市所有の捕獲檻 109 を市内 296 の自治会から要望があれば設置し地元で管理をするというもので 2 ヶ月間捕獲の実績が無ければ次に申請された自治会へ設置するという事であった。

この様に五條市では五條市鳥獣被害防止計画に基づき鳥獣の捕獲駆除を行っているが、平成 28 年度の捕獲実績がイノシシ 1,160 頭・シカ 362 頭 平成 29 年度ではイノシシ 1,572 頭・シカ 397 頭となっている。これらの捕獲されたイノシシ・シカはこれまでは廃棄処理されていたが、ジビエ用精肉として地域活性に役立てようと発想で、平成 26 年に国庫補助事業「鳥獣被害防止総合対策交付金」ハード事業(補助率 55%)を活用し五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」を設置している。

五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」は奈良県野生獣肉に係る管理衛生ガイドラインに従い衛生施設や管理体制が採られている。施設への搬入状況は下記のとおりである。

| 年 度 | イノシシ | シカ |
|-----|-------|-------|
| H27 | 159 頭 | 43 頭 |
| H28 | 203 頭 | 84 頭 |
| H29 | 301 頭 | 125 頭 |

捕獲数に対する搬入率は 50%程度である。

施設では捕獲された動物の屠殺(シメ)は行っておらず、あくまでも解体と精肉を行っている。動物の搬入は搬入者自身が屠殺を行い 1 時間以内に搬入しなければ成らない為、地理的に搬入が困難になるケースもあるという。

2、 まとめ

施設を見学したが小規模な施設ではあったが徹底した衛生管理がされておりトレーサビリティによる捕獲地・捕獲者等の情報も十分管理されていた。現在施設で精肉されたものは他の民間事業者でレトルトカレーや肉まんなどへ加工されたり、市内のレストラン等で提供されている。また一部はインターネット販売やふるさとの納税の返礼品としても活用されている。

今後の課題としてはジビエそのものの需要の拡大が必要であると感じた。最近ではジビエブームであると思うが五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」高品質のようにジビエ加工精肉を提供する事は需要拡大にとって重要であるとする。

視察日 平成 30 年 10 月 12 日

視察先 三重県鈴鹿市立平田野中学校

視察項目 ペッパーを活用した「プログラミング教育」について

1、視察内容

鈴鹿市教育委員会で取り組まれているプログラミング教育とは子供たちに意図した指示をコンピューターに処理を行い指示通り作動させることを体験させ「プログラミング的思考」を育成させる事を目的としている。またプログラミング教育のねらいは現代の情報技術がコンピューターによって支えられている事を気付かせ、コンピューターを活用する事で身近な問題解決やよりよい社会を築く事への意欲を育むこととしている。

鈴鹿市のプログラミング教育の取り組みに至った背景は、平成 29 年 6 月に告示された小学校学習指導要領解説において「児童の言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していく事が出来るよう教育課程の編成を図るものとする」とあり、また「情報活用能力の育成を図る為、各学校において必要な環境を整え学習活動の充実を図る事」と示されている事による。

小学校におけるプログラミング教育は 2020 年度から小学校での必修化が予定されているが、小学校段階での学習は特別にプログラミング教育の単元を設けプログラミング言語の学習や技術を習得するというものではなく、各教科の授業を通じて文字の入力等の基本的なコンピューター操作やプログラミングに必要な論理的思考力を身に付けさせるための学習活動を行うとしている。

鈴鹿市ではプログラミング教育を実践していくための環境整備としてのハード事業として人型ロボット「ペッパー」を平成 30 年度より 3 台導入している。ロボットはソフトバンクグループの社会貢献活動として教育機関へ対し提供されているもので、ロボット本体及びプログラミング教育カリキュラム、プログラミング用ソフトウェアが特別価格で提供されている。

導入は買い取りではなくレンタル方式となっており鈴鹿市では 3 台ロボットを 3 年間のレンタルしておりその費用は 3 年間で 2,160,000 円となっている。平成 30 年度では市内の小学校・中学校各 1 校の指定校を巡回させプログラミング教育に活用している。

今回の視察において指定校である鈴鹿市立平田野中学校での人型ロボット「ペッパー」を使ったプログラミング教育を見学した。グループごとにそれぞれがコンピューターでプログラミングしたデータをロボットへ送り作動させるという事を行っていた。プログラミングは通常のプログラミング言語の様な難解なものではなく提供されている専用プログラミングソフトによって行われる。また Web 上の専用のサイトにログインした環境でプログラミングが出来るようになっており、授業においてはインターネット環境が必須である。

3、まとめ

鈴鹿市がいち早く小学校・中学校のプログラミング教育に取り組んでいる背景の一つに鈴鹿市の産業が大きく影響しているのではと感じた。鈴鹿市においては製造業が盛んであり本田技研工業や旭化成、富士ゼロックスといった大手企業の工場が数多く有り、子供たちのコンピューターの習熟は将来の就職や生活に必要不可欠であるからだろう。しかしながらこの事は鈴鹿市に限ったことではなく都城市としても義務教育におけるコンピューター習熟を目的とした授業の拡充やプログラミング教育の研究も必要であると感じた。

提出日 平成 30 年 10 月 22 日

視 察 報 告 書

川内 賢幸

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名

進政会

視察者：荒神稔、長友潤治、中田悟、川内賢幸、赤塚隆志、山内いっとく

2 視察先・テーマ及び日時

◎10月10日（水） 13時30分～15時00分

視察先：大阪府茨木市 視察内容：茨木っ子グローイングアッププラン

説明者：茨木市教育委員会学校教育部長 小川氏、学校教育推進課 尾崎参事

◎10月11日（木） 13時30分～15時30分

視察先：奈良県五條市 視察内容：ジビエの活用について、ジビエール五條

説明者：産業環境部 部長 井上昭氏、産業環境部 課長補佐 泉井伸之氏

◎10月12日（金） 9時30分～11時30分

視察先：三重県鈴鹿市 視察内容：プログラミング教育について

説明者：鈴鹿市教育委員会事務局 参事 山田純生氏、

教育指導課指導G 副主幹 青木有紀氏、平田野中学校 校長 岡野優子 氏

3 視察の内容

●大阪府茨木市 茨木っ子グローイングアッププラン

視察先を選んだ理由は、茨木市では「一人も見捨てへん教育」をモットーに、平成20年から3カ年計画で子どもたちの総体的な学力向上に取り組んでおり、今期は第4次計画に入り、1次計画で小学1年生であった児童が中学3年生になるまでの期間を行ってきた第3次計画までの成果をもとに作られた新たな計画実施時期にはいり、これまでの取組実績と成果を確認し本市の学力向上等に活かすために選びました。

●奈良県五條市 ジビエの活用について、食肉加工施設ジビエール五條

視察先に選んだ理由は、五條市では捕獲された鳥獣の加工施設を市直営で建設・運営しており、3年が経過したところであり、本市でも相当数捕獲される鳥獣の現状に鑑み、少しでも地域活性化や鳥獣被害の軽減につなげたいという考えのもと選びました。

●三重県鈴鹿市 プログラミング教育について

視察先に選んだ理由は、2020年より小学校で必修化されるプログラミング教育について、鈴鹿市では3体のロボットを導入する等、先進的な取組を本年度から3カ年計画で始めたところであり、本市でも2年後の必修化に向けた対策が急務と考え選びました。

4 視察の感想

◎大阪府茨木市

茨木市では、10年前に第1次計画「茨木っ子プラン22」としてスタートさせた、「一人も見捨てへん教育」を継続して行っており、今期は小学校1年生が中学校3年生になるまで取り組んだ第3次計画の成果を活かし、新たな取組を推進する第4次計画にはいっていました。

当初は、「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の4つの力を育むことから始め、現在は健康・体力向上を目指す「元気力」を加えた5つの力を大切に取り組んでおり、総合的に子どもたちの「生きる力」を高める教育を行っていました。

事業の成果として第4次から追加された「元気力」以外の力については、事業実施に伴い成果が上がっていました。体力については、全国平均を下回っているとの説明があり、第4次計画以降の取組に注目したいところです。

全体として、義務教育の9年間を一貫したモットーのもと取り組んだ成果が見られ、特に学力の向上については、全国模試の結果が改善しており、背景には「正答率40%以下」の学力低位層を減らすことを一番の目標にしているだけありトータルでは向上しているという結果でした。低位層の子どもたちへの対応として、家庭との連携はもとよりソーシャルワーカーを増やすことで普段からの関係作りに努めていました。

また、第3次計画からは公立の保育園・幼稚園とも連携して、長期にわたる取り組みを始めていました。このことは、子どもたちの様子を長期的に見守り、対応を取っていくことができるため、「一人も見捨てへん教育」がこれまで以上に実行されていると感じました。

あわせて、関連予算も年々増額され、ソーシャルワーカーの増員はもとより、5年以下の教員が全体の4割を占めており、教員を毎年100名採用するなど事業への本気度が見てとれました。

本市では、各学校の取組に一任、校長による個人差が見られる中、茨木市では、各学校との連携を強化し、良い結果を出す学校、良い取り組みをしている学校の情報を共有し、まさに一体的な取組が非常に機能している印象を受けました。

残念な点として、長期計画とはいえ、学力低位層の児童・生徒を定点的長期に対応する点が弱く感じた。例えば、小学校6年生の無回答率が高いという点では、6年間取り組んできた結果としては成果が見られないととれ、また、中学校進学とともに学力低位層の

割合が増える年があるなど、改善の余地があるように思えました。

◎奈良県五條市

奈良県五條市では、鳥獣被害の減少と捕獲した鳥獣肉「ジビエ」を活かしてまちおこしを始めていました。具体的には、国の補助金をうまく活用し食肉加工処理センター「ジビエール五條」を建設、運営していました。

この施設に搬入されるジビエについては、衛生面や責任面の観点から市が捕獲したものに限っており、平成 29 年度は、イノシシについては全体の捕獲数 1572 頭に対し、市が捕獲したもの 742 頭であり、このうち 301 頭（40.6％）を搬入、ニホンジカは全体捕獲数 397 頭に対し、市が捕獲したもの 154 頭であり、このうち 125 頭（81.2％）が搬入されていました。搬入率は、47.5％であり搬入されないものは焼却処分されていました。

搬入されたジビエは、1 次加工され生肉として出荷されていました。いわゆる 6 次産業化とは違い、ジビエを利用した加工食品はジビエールでは製造されていませんでした。ここで加工された生肉については、飲食店やネット販売など総数 80 事業所へ販売されていました。販売された肉については、トレーサビリティを導入しており、いつどこで捕獲され加工されたか検索できるようになっていました。

また、屑肉については廃棄されずペット用の餌を製造する企業へ販売されていました。

課題のひとつとして感じたのは、安定供給のためには全体的な量が少ないということです。これは市で捕獲したものしか搬入されない現状があり、この点の改善には、食肉への加工ができる人材の確保、育成はもとより、搬入基準の見直しが必要となってきます。

搬入量の拡大については、来年度より一般からの搬入を受け入れる計画としているようでそのための予算措置等を検討しているとのことでした。

課題の二つ目として、ジビエール五條の施設そのものが、市役所から 20 分程度かかる山の中腹にあり、ジビエの搬入には交通アクセスとして非常に問題があると感じた点です。

ここまでの道は中心部から 1 本しかなく、この夏の災害で橋を臨時的にかけするなどしており、安定した運営には問題がありました。この点の理由を尋ねたところ、施設建設についての住民の意見が様々あり、結果として町中ではなく山の中に建設することになったとの説明がありました。先の運用を考えれば、もう少し慎重な場所選定が求められたのではないかと感じました。

◎三重県鈴鹿市

三重県鈴鹿市では、プログラミング教育について先進的な取り組みを始めていました。民間企業の行うロボット貸出事業を行うことで、子どもたちのプログラミング教育を推進していました。この事業は、プログラミングに利用できるロボット 3 体をソフトつきで 3 年間自治体に貸し出すもので、1 体あたり月額 2 万円の 3 年間合計 7 2 万円、3 台で 2 1 6 万円のレンタル費用がかかっていました。

実際の授業では、指定のソフトを活用してロボットにさせたい動作を組み合わせることでロボットが動作するか、しないか、思い通りに動くのかをリアルタイムで確認できるの

で、どこがおかしいのか、間違っているのかを確かめながら作業できる利点がありました。ソフトや機器の操作は、多少個人差が見られたものの、助けあいながら取組ことで成果を上げていました。

課題として感じたことは、スマホの保有率が高いということもあるのかタイピングが苦手な子が複数見られたこと（例えば「東京」が入力できなかった）、プログラミング教育が先に行き過ぎているのかペイントソフトをうまく使えていない生徒も見られました。また、先生においてもある程度の技術が求められることから、今の時代にあった人材の育成が必要であり、こういった点は、早い段階から対応できるような教育を行う必要性があると感じました。

5 視察の成果及び市政への反映等

茨木市の茨木っ子グローイングアップ事業については、長期的な視点を持つということはもちろん、市全体として一貫した目標の基取り組んでいくことで成果を上げており、全体の一体感が乏しい本市へのこういった視点導入は大いに重要だと感じました。

また、その目標達成のため予算増額も厭わない姿勢は大いに評価できるものでした。

さらに、全体として教育委員会と学校、家庭との連携が生きており全体的、継続的な取組、一貫した目標設定、達成までの事業推進予算の付け方等、本市でも大いに参考になるものでした。本市の教育基本計画には基本方針として「すぐれた知性、豊かな心、たくましい体」が示されています。これは、いわゆる総合力を示すものと認識していますが、学力低下がみられる本市の現状に鑑みると、茨木市のように、より具体的、視覚的、一体的、長期的なポイントのもと次世代を担う子どもたちの育成を行う必要があります、世界に羽ばたく子どもたちの育成のためには、そのための予算も具体的な事業のもと付けていくべきだろう考えます。

奈良県五條市のジビエ活用については、宮崎県内でも同様の取組を実施している自治体はあるものの、施設そのものが建設され3年ということ、イノシシの捕獲数が本市に近かった（平成29年度 本市1229頭、五條市1538頭）ということで視察先に選びました。実際に感じたのは、国の補助金をうまく活用して事業化をしている点が参考になりました。ジビエール五條建設については、総事業費39313千円に対し、国の補助19787千円であり、55%の補助率で建設していました。このほか、鳥獣被害対策に係る事業について、国の補助金をうまく活用している印象でした。

鳥獣捕獲体制については、国の定める「鳥獣被害対策実施隊」に市民24名を任命（うち3名市職員）しており、本市の13名（すべて市職員）に比べて現場を把握した市民が任命されており実に機能的な取組を実施していた。

それだけに、施設への搬入が市で捕獲したものだけになっている点はいさげなく感じました。この点は、次年度で改善していく方針とのことでした。

ジビエの搬入については、夏は60分、冬90分、冷蔵車2時間という時間制限があることから、捕獲先から施設までの距離、アクセスのしやすさも重要になってきます。五條市の面積は292㎏ですが、本市は653㎏と2およそ2.2倍の面積があり、鳥獣の生息域も広

範囲に当たるため、搬入時間を考えると複数の施設が必要になる可能性があります。

また、施設の運営は現在、五條市の直轄で行っていますが、より商業的な運用をするのであれば指定管理も視野に運用をしていくべきと考えます。

こういった点も含め、本市ではどのような形で活かすことができるかを考える必要があります。複数ある加工施設に併設する形か、道の駅など飲食施設がある場所への併設、食肉センターを活かす方法など、様々な方法が考えられます。そのための補助事業としても、施設の建設を市が独自で行わず、地域に補助金を出す形や、ジビエ搬入の時間を考えた冷蔵車の導入補助金などを設けていく必要もあると考えます。

三重県鈴鹿市のプログラミング教育については、ソフトバンクの事業をうまく活用した面白い取り組みでありました。今回は、中学校の授業を見学することができ、導入されたロボット（ペッパー）を、生徒がどのように操作するのか、どのような設備投資が必要なのかをつかむことができました。民間企業の事業をうまく活用して、生徒の経験値を上げることが、他では簡単にできないことであり、プログラミングへの親しみやすさの醸成にもつながっていると感じました。

考えるのは、2020 年から小学校で必修化されるプログラミング教育を、本市としていかに早期に身のあるものにしていくのが課題であり、来年度中にその方針を打ち出し、環境を整えていかねばなりません。圧倒的なエンジニア不足が叫ばれている日本で、今回のプログラミング教育必修化は、大きな分岐点になると考えます。

本市では、導入するとして小学校36校（御池小休校中のため）、中学校15校の合計51台導入することになり、1体3年間72万×51台で3672万円かかることとなりますので、高価なロボット導入は難しいにしても、視察地で起こった問題を確実に本市の教育に活かす必要があります。

中でも、対応できる技術者の育成・確保、大勢でログインできるサーバーの整備、大勢利用に耐えられるネット環境の導入といった問題は本市でも十分に予見されるものであり、早期に教育委員会と情報共有を図らねばならない問題です。

プログラミング教育に関連して、政府はキャッシュレス化を推進しています。今後、AIの活用、普及が今以上に進み、社会がキャッシュレス化していけば、自然とエンジニアの重要性が増してきます。本市から、優れた人材を輩出することができれば、都城が日本のシリコンバレーとなる可能性も秘めています。

こういった時代の流れも見据え、本市のプログラミング教育の構築をすべきと考えます。

提出日 平成30年10月23日

視 察 報 告 書

進政会 赤塚 隆志

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名： 進政会

荒神 稔、中田 悟、長友 潤二、川内 賢幸、山内 いっとく、赤塚 隆志

2. 視察先・テーマ及び日時

- ・平成30年10月10日（水）
大阪府茨木市 茨木っ子 グローイングアッププランについて
- ・平成30年10月11日（木）
奈良県五條市 ジビエ活用について
- ・平成30年10月12日（金）
三重県鈴鹿市 小中学校におけるプログラミング教育について

3. 視察の内容

・大阪府茨木市

「グローイングアッププランについて」

茨木市役所内に於いて、茨木市教育委員会学校教育推進課長より、茨木市の掲げた「一人も見捨てへん教育」の実践に向けた取組みを、パワーポイントを使用しての説明があった。大きな目標として、5つの力、「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」「元気力」の向上を第3次計画として平成20～22年度「茨木っこプラン22」、平成23～25年度「茨木っこステップアッププラン25」、平成26～28年度「茨木っこステップアッププラン28」を実施、第4次計画として、平成29～30年度茨木っ子グローイングアッププランを実施しているとの説明があった。

・奈良県五條市

「ジビエ活用について」

五條市役所内に於いて、平成23年度より平成29年度までのイノシシ、ニホンシカ、アライグマ、カワウの捕獲数や狩猟実績、イノシシとニホンシカの捕獲

後の資源活用の説明があった。説明の後、五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」に赴き、担当者より実際のイノシシの解体作業の様子を視察し、施設の案内や、加工肉の保管状況や出荷までのプロセスの説明があった。

・三重県鈴鹿市

「小中学校におけるプログラミング教育について」

鈴鹿市立平田野中学校に於いて、鈴鹿市教育委員会より鈴鹿市の実践しているプログラミング教育について、パワーポイントを使用しての説明がなされた。鈴鹿市の掲げる目標として、複雑なプログラミングができるようにではなく、将来AI技術の発展や環境の変化に対応できるよう、小中学生の時期より、プログラミングにふれ、慣れ親しんでおくことを最重要としてあげている。説明後、3年3組の技術科学の授業を参観し、担当の渥美教諭が実際に指導し、生徒がAIロボット「ペッパー君」を制御するプログラミングを行い、プログラムどおり動くことの確認等をするまでの一連の流れを視察できた。

4. 視察の感想

・大阪府茨木市

「グローイングアッププランについて」では、各年度各プラン毎に、成績の実際を数値化しており単年度での成果を取りまとめ、次年度への課題として、きめ細やかな指導内容になっていると感じた。また、保育園・幼稚園を含む「保幼小中連携教育」の実践と業務改善サポートチームによる研修を実施し、考え得る全ての方策を実施していることが説明により理解できた。中長期的な目標設定と、成果を見える化することにより、担当者の意識継続と成績上位の子どもたちと成績下位の子どもたちのケアがしっかりとされていると感じた。

・奈良県五條市

「ジビエ活用について」では、鳥獣被害に悩む全ての自治体が抱える課題を少しでも前向きに解決していこうとの意欲が感じられた。実際の駆除にあたっては狩猟者の高齢化や、鳥獣の生息域の拡大、生息個体数の把握など、困難な課題が残されており、毎年、捕獲数は確実に増えつつあるものの、抜本的な解決には至っていないと感じた。それはここ五條市特有の問題ではなく、全ての自治体が抱える共通の課題であることは変わらない。捕獲後の新鮮で安全な個体のみを「ジビエ」として処理する加工場を実際に視察したが、担当する職員のスキルや、持ち込むまでの時間制限、環境問題への対応など、多様な課題解決に苦労している状況が把握できた。また、ジビエ料理として加工販売するルートや観光地での販売等、まだまだ解決すべき問題が残されているように思えた。

・三重県鈴鹿市

「小中学校におけるプログラミング教育について」では、実際の授業を参観できたことが大きな成果であった。平田野中学校では3体の「ペッパー君」を活用

して、プログラミング教育を実践しているが、生徒の習熟に差があり、指導が大変そうであった。ただ、スキルのある生徒が、担当教諭に代わり、うまく操作できなかったり、プログラミングができない生徒のサポートにあたっており、彼らが将来AI技術の発展に寄与するような人材に育っていくだろうことは容易に想像できた。また、担当教諭より、今後の課題として、ネットワーク環境の改善と実施する授業時数に対応する個体の整備や、指導するスキルを持った指導陣の拡充など、費用面や費用対効果の面から、検討すべき問題も多いとの話を伺い、華やかな面だけではないことを感じ取れた。

5. 視察の成果及び市政への反映等

茨木市の教育に関する取組については、本市においても、学力・体力面の充実を図る観点からも興味深いものがあった。特に、幼稚園や保育園と言った幼少期から、小学校・中学校との一体となった連携については、本市においても検討できる題材として良かったのではと思う。幼少期にしっかりとした教育プログラムを実施することで、学力向上に寄与できることは脳科学の面からも指摘されており、是非教育委員会には検討をお願いしたいと思う。

五條市のジビエの活用については、本市においてもイノシシやシカの食害に悩む地域の問題と合致する点が多く、また狩猟者の高齢化等、解決すべき課題についても合致する点が多い。しかしながら、ジビエ食肉の活用のための加工場の設置については、安全な個体のみを解体する必要があるため、場所等の問題があり、また販路開拓など、これから解決すべき問題も多く、他の自治体の取組も参考としながら、取り入れられるものについては積極的に取り組むことが大事だと考える。

鈴鹿市のプログラミング教育については、2020年指導要綱の改正に伴い、全ての小中学校において実施すべきカリキュラムとなるため、「ペッパー君」という新しいAI媒体を活用するアイデアは見習うべきところであろう。ただし、担当教諭が述べていたように、「ネットワーク環境の整備」や「使用するロボットなどに係る経費」、また「指導する指導者の育成と人数確保」の問題は本市においても先進的取組を実施している鈴鹿市の状況を注視し、参考とすべきと考える。いずれにしても、時期がきたら全国的に実施されることであり、教育委員会としても、担当者を先進地域に派遣、研修会への参加等研鑽すべきと考える。予算措置についても、柔軟に対応し、来るべきAI時代を担う子どもたちの育成には積極的に取り組んで行きたい。

以 上

都城市議会議長 様

提出日 平成30年10月15日

氏 名 山内 いっとく

研 修 報 告 書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 所属会派名及び視察者名

進政会（荒神稔 長友潤治 中田悟 川内賢幸 赤塚隆志 山内いっとく）

2 視察先・テーマ及び日時

平成30年10月10日（水）13:00～15:30 大阪府茨木市役所

茨木っ子グローイングアッププランについて

平成30年10月11日（木）13:00～16:00 奈良県五條市役所, ジビエール（食肉処理加工施設）

ジビエ活用について

平成30年10月12日（金）9:00～11:30 三重県鈴鹿市立平田野中学校

・プログラミング教育について

3 視察内容

(1) 茨木っ子グローイングアッププランについて（10日、大阪府茨木市）

～一人も見捨てへん教育～（第4次3か年計画）

●取り組みの3つの特徴

①5つの力の設定（ゆめ力, 自分力, つながり力, 学び力, 元気力）

②学力低位層に着目（子どもたちを支援するため多くの人的支援）

学習支援者, 学習サポーター, 介助員, 学校図書館支援員, 部活動外部指導員,
生徒サポーター, スクールカウンセラー, スクールソーシャルワーカー

③教育委員会と学校の連携（学力向上担当者会）

●4つの方針

①「一人も見捨てへん」教育の実現

②持続可能な教育施策と教育活動（人的配置事業に約3億円の予算）

③茨木型保幼小中連携教育の推進

④総合的な教育施策への転換

(2) ジビエ活用について（11日、奈良県五條市）

●鳥獣被害防止に向けて講じてきた対策

①被害防除（防護柵の整備）

②個体調整（アライグマ防除計画の策定, 狩猟免許取得の推進）

捕獲実績（H29 イノシシ1572頭, ニホンジカ397頭, アライグマ153頭）

捕獲方法（H29 わな猟: イノシシ98%, ニホンジカ93%）

③生息環境管理（捕獲檻169機）

●資源の有効活用

五條市食肉処理加工施設「ジビエール五條」について

- ・事業費：39,313,000 円（うち国の補助 19,787,547 円）
- ・H29 年度販売実績：13,843 千円
- ・H29 年度経費：10,491 千円
- ・搬入数（イノシシ 301 頭、シカ 125 頭）

(3) プログラミング教育について（12 日、三重県鈴鹿市）

●プログラミング教育について

プログラミング的思考を育み、論理的思考力の育成を目指す
 プログラミング的思考とは、自分が意図する一連の活動を実現するために、
 どのような動きの組み合わせが必要なのかといったことを論理的に考えていく力

●鈴鹿市のプログラミング教育

- ①人型ロボットペッパーの活用（レンタル費用：3 台 3 年間で 216 万円）
- ②プログラミング教材レゴ WeDo 2

4 視察の感想及び市政への反映

(1) 茨木っ子グローイングアッププランについて（大阪府茨木市）

教育には、様々な課題があるが、茨木市では、学力低位層に着目し、人的支援の増加と、全国学力調査の結果を分析し、学校の状況に応じた事業を実施しているということで、学力は全国平均を上回るようになってきている。今年度はその人的支援として約 3 億円の予算をつけており、今後は、「右肩上がりの成長」から「良好な水準の持続」を目指し、教職員の業務改善を図っている。都城市においても、学力の向上とともに教職員の業務改革は課題であり、茨木市を参考の一つとして取り組む必要があると感じた。また、都城市との違いは、教職員の年齢層の違いがあり、教職員歴 5 年以下の若い教員が約 4 割ということで、新しい取り組みをしやすい環境にあるのかもしれないと感じた。

(2) ジビエ活用について（奈良県五條市）

都城市も鳥獣被害があり、9 月議会で狩猟免許の補助が認定されたところである。五條市では、補助以外にも支援をしており、さらに駆除した鳥獣の活用ということで、市で箱わなを所有し、そのわなにかかったイノシシやシカを食肉処理加工施設「ジビエール五條」において、処理・加工を実施している。実際に食肉処理加工施設および処理の様子を見学した。施設建設には、住民等の意見などもあり、山奥に建設されていた。ただし、捕獲から 1 時間という時間で施設まで運送するには、時間的な制約がかなりあり、この先進的な取り組みが成功しているのを考えるともったいないと感じた。都城市では捕獲後埋葬処理が多いため、市の設備としてのジビエの食肉加工施設の要望をきくこともあるため、五條市の動向を見て本市でも実現することの可能性が見えてきた。また、都城市は肉と焼酎のまちとして観光 PR を取り組んでいるため、さらにこのジビエを地元の飲食店と提携して取り組んだら面白いのではないかと感じた。

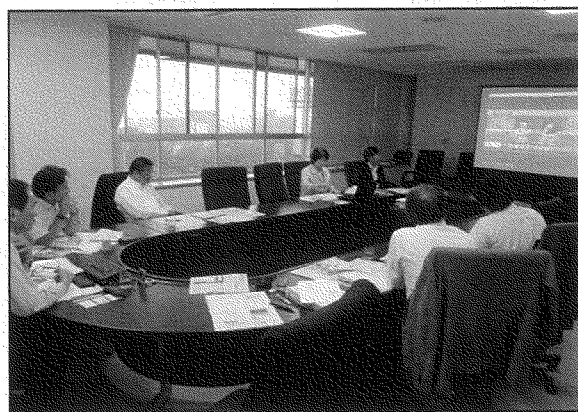
(3) プログラミング教育について（三重県鈴鹿市）

2020 年度から小学校にもプログラミング教育が導入されることとなっており、この鈴鹿市では、それに先だって今年度、小中学校の各 1 校がモデル校として人型ロボットペッパーが 3 台導入されている。中学校における授業の様子を参観させていただいた。ペッパーの活用は、興味関心といった学習意欲の向上には効果あると思うが、成績向上や学力向上、プログラミング的思考の定着にはまだまだ今後の検証が必要であると感じた。プログラミング教育の課題としては、英語教育と同様、教職員の指導力が課題であると感じた。小学校教員は、文系出身の先生方が多いため、この体系的なプログラミングには大きな抵抗感が予想される。鈴鹿市では、すでに教職員への研修を実施しており、本市においても早急に研修をしなければ、2020 年度の導入時に指導ができないのではないかと感じた。

6 添付資料



茨木市役所研修①



茨木市役所研修②



茨木市役所研修③



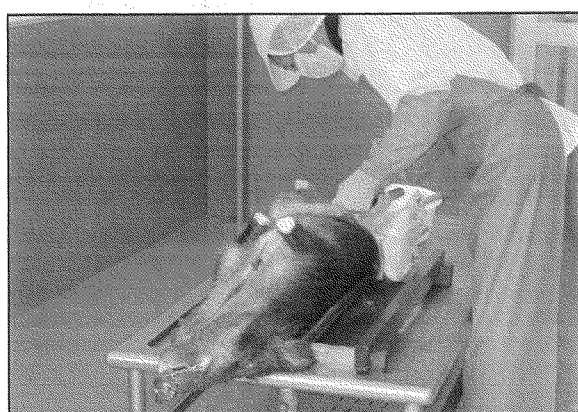
茨木市役所研修④



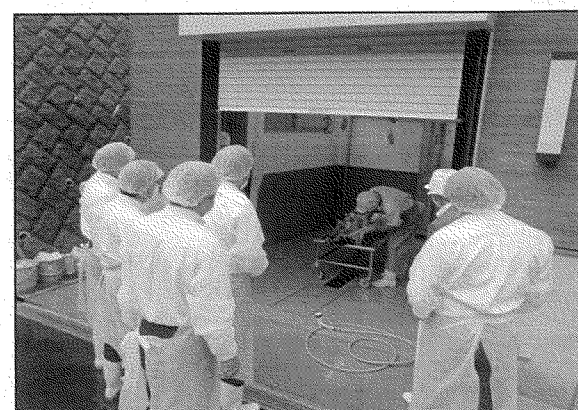
五條市役所研修①



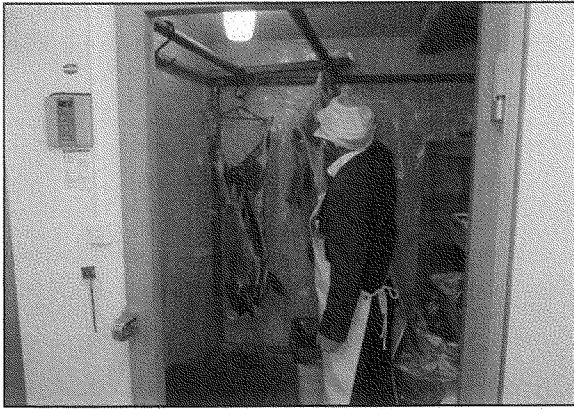
五條市役所研修②



ジビエール五條①



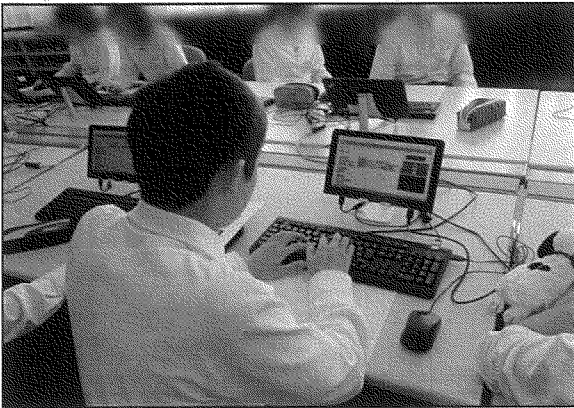
ジビエール五條②



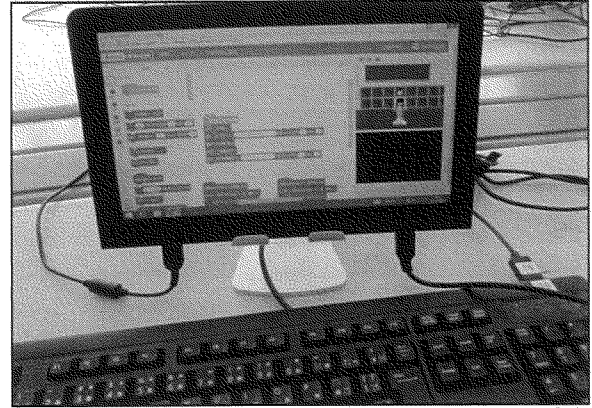
ジビエール五條③



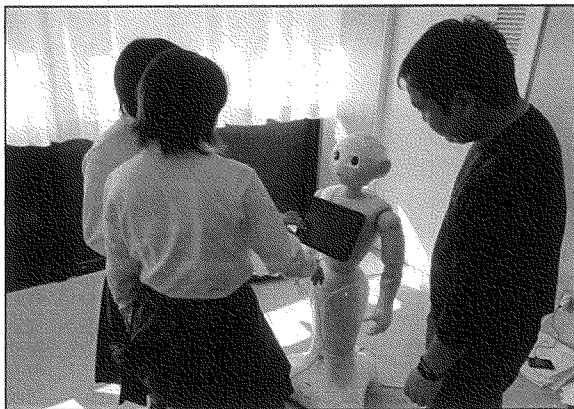
ジビエール五條④



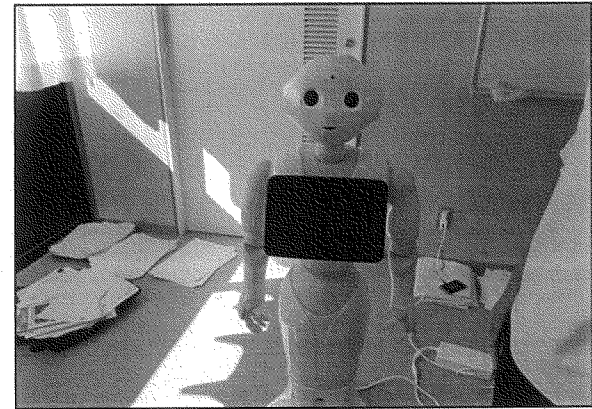
鈴鹿市平田野中学校①



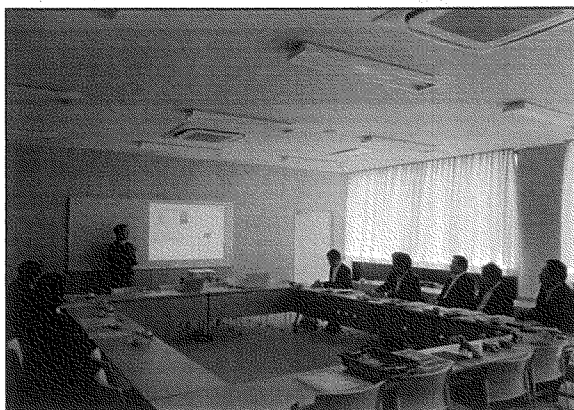
鈴鹿市平田野中学校②



鈴鹿市平田野中学校③



鈴鹿市平田野中学校④



鈴鹿市平田野中学校⑤



鈴鹿市平田野中学校⑥